

教養講座講師からのメッセージ

逆境の時代にこそ、我々は成長する

未曾有の危機をもたらした東日本大震災から一年。
被災地は、まだ復興への歩みを始めたばかりであり、日本全体の経済も、いまだ不況から脱していません。
そして、世界の経済もまた、ユーロ危機を始めとする様々な危機に直面しています。
こうした時代に、これから実社会へ出ようとする皆さんは、
嵐の海に向かって出航する船乗りのように、心に大きな不安を抱いているのではないのでしょうか。
しかし、こうした時代だからこそ、皆さんに、心を込めて申し上げたい。
逆境の時代にこそ、我々は成長する。
そのことを申し上げたい。
なぜなら、逆境の時代とは、単なる危機の時代ではなく、その危機を通じて、従来の古い社会のパラダイムが壊れ、
新たな社会のパラダイムへと脱皮していく時代だからです。それゆえ、これからの時代には、企業も市場も社会も
大きく変わり、我々一人ひとりのビジネスパーソンも、変化し、成長し、進化していかなければなりません。

されば、これからの時代は、この危機と逆境を糧として、誰もが大きく成長できる時代。
では、その成長を遂げていくために、我々に、何が求められるのか。
「志」を抱くことです。
この危機と逆境を糧として、自分が働く職場を、企業を、市場を、どう変えていくのか。
そして、我々が生きるこの社会を、どう変えていくのか。その志を抱いていただきたい。
世の中に溢れる、「生き残り」や「サバイバル」という寂しい言葉に流されることなく、「働き甲斐」と「生き甲斐」を
求め、自身の職業に誇りと使命感を持ち、こうした逆境の時代にこそ、明確な志を抱いていただきたい。
もし、その志を抱いて、この航海に出るならば、皆さんの旅は、かならず素晴らしい旅になります。
どのような嵐も荒波も、すべてを成長の糧としながら、遥かな目的地をめざす。
そうした素晴らしい旅になります。
いまも、その航海を続ける一人の仲間として、互いに、その目的地で会えることを、心より願っています。



多摩大学大学院教授
シンクタンク・ソフィアバンク代表
日経仕事ゼミ講師

田坂 広志